

達人リコメンドの四国

[達人リコメンドの四国\(香川編\)](#)

[達人リコメンドの四国\(ウェルかめ編\)](#)

[達人リコメンドの四国\(石鎚編\)](#)

[達人リコメンドの四国\(ミッフィー編\)](#)

[達人リコメンドの四国\(四万十編\)](#)

[達人リコメンドの四国～エンド・エクスプローラー](#)

[達人リコメンドの四国\(続・四万十川編\)](#)

[達人リコメンドの四国\(続々四万十川編\)](#)

[達人リコメンドの四国～失われたアークを探して](#)

[達人リコメンドの四国～ごっくん馬路村](#)

[達人リコメンドの四国～おいしい高知](#)

[達人リコメンドの四国～アートな神山町](#)

[達人リコメンドの四国～続・神山、お礼参り](#)

[達人リコメンドの四国～龍馬パスポート](#)

[達人リコメンドの四国～見残し・見直し・見落とし](#)

[達人リコメンドの四国～お城巡り](#)

プロローグ

「あなたにとって一番輝いていた時はいつ？」なんて聞かれたら答は「今」

けれどもそんな答が言える自分が形成されたのは、高松に転勤して遍路旅を始めてから・・かも知れません。学生気分が抜けず、やることなすこと中途半端だった20代の私が初めて仕上げた目標～当時、転勤がイヤで88ヶ所を回ってから辞表提出だあ～なんて馬鹿な事を宣言して突っ張っていましたが、スタンプラリー気分始めたこの旅で四国の文化や人々に触れ、やがては、高松での毎日が楽しくて仕方なくなり、最後の札所・大窪寺を訪問するのをためらった事を思い出します。

結果、88ヶ所すべてをお参りして目標達成の一年後、東京への転勤辞令が原因で退職しました。辛いこと、苦しいこともありましたが、今思い出すのは、キラキラ輝いていた20代の私。



時代が自分の後を追いかけてくる感覚で毎日の変化を心から楽しんでいました。今の私があるのは、四国のおかげ？そんなたいそうな話じゃありませんが、「私を育ててくれた四国にご恩返し～！」なんて意味を込めてここで四国の素晴らしさを紹介します。

題して「達人リコメンドの四国」これを読んで四国に行きたくなったら、ご相談下さい。



かずら橋(徳島県三好市)

徳島と言って思い出すのは、阿波踊り？地鶏の名前は「阿波尾鶏」なんてシャレてますが、火にかければ、「えらいやっちゃヨイヨイヨイヨ〜イ♪」なんてリズムで踊り出すかも。

渦潮でおなじみ鳴門海峡や、次のNHK朝ドラ「ウエルかめ」の舞台となる日和佐等の海岸部から、四国三郎と呼ばれる吉野川沿いの平野部、剣山あたりの山岳部と多様な顔を持つ県ですが、生活・慣習・文化を含めて異彩を放つのが祖谷地区。



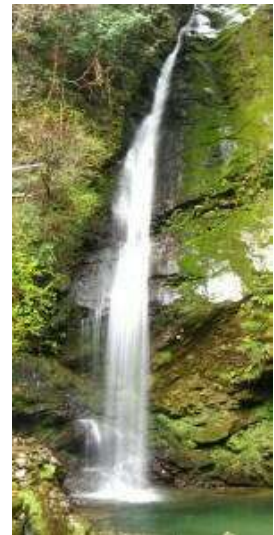
歴史を辿れば、屋島の合戦で敗れて、命からがら逃げて生き延びた平家の生き残りが、安住の地として選んだ場所が、この地ですから、平家落人伝説が数多く残されています。平家由来の宝物を展示する平家屋敷、京都(みやこ)での生活を懐かしんで遊んだ琵琶の滝、安徳天皇を御神体とする栗枝渡八幡神社など興味のある人には宝の山で、本当はインディー・ジョーンズが探し当てた「アーク」が剣山に隠されているなんて説まであって、山深さゆえに神秘的な伝説が並ぶのでしょうか。



透きとおった水の祖谷川が四国山地を削った美しい溪谷、上から見たら本気でちびりそうになる断崖絶壁には小便小僧の像があって、住居は急な斜面にしがみつくように建てられています。国道32号線から祖谷口橋を渡ってかずら橋を目指せば、くねくね曲がった細い道ですが、祖谷溪谷の壮大な風景を楽しめます。



そして、ゴールはかずら橋。蔓性植物の「シラクチカズラ」を使って編まれたケーブルを使用した吊橋です。足元は丸太が荒い網目に渡されて、一歩進むたびにグラグラ、ぐらぐら。かつては、料金を払えば往復できたこの橋も現在は一方通行で、隣にはコンクリートの橋が渡されて、観光施設としての役目を担うだけですが、夜間はライトアップされ、周辺ではアマゴや鮎の塩焼きとか、この地方でしか食べられない味噌田楽の一種「でこまわし」が販売されています。参考まで、でこまわしとは、おそ松くんのキャラクターのちび太がいつも持っている串刺しおでんの炭焼きバージョン。「焼きたての熱い串をフウフウ吹きながら回したりするさまが、阿波人形浄瑠璃の木偶(でこ)人形を操る姿にさも似たり」という理由でそんな名前がついたそうです。また、かずら橋は天然の素材を使用している関係上3年ごとに架け替えするそうです。



観光には最適の場所ですが、達人としてのオススメは、ここから祖谷川沿いを上流に進むこと小一時間、東祖谷村名頃なる場所にある奥祖谷二重かずら橋です。男橋・女橋と呼ばれる二つのかずら橋と、人力ロープウェイの野猿で祖谷川を渡ると溪谷を独り占めした気分になりますよ。

さて、今回の旅でのオススメは、「新祖谷温泉ホテルかずら橋」という宿。



広々とした部屋にケーブルカーに乗って昇る露天風呂。天空に浮かぶ気分で見ると夜空、溪谷の向こうの山の緑、斜面にしがみつくとように立つ家、手の届きそうな所に咲く満開の桜、花の中で遊ぶメジロ。



(混浴露天風呂)



(男性露天風呂)



(女性露天風呂)



桜の花に群がるメジロ





(別天の湯)



(足湯)



(休憩所)

都会の喧騒を忘れ、ゆっくりと時間を費やす最高の贅沢を味わう至福の空間。静かにお湯につかれれば、祖谷に癒された～なんて駄洒落も飛び出し・・余は満足じゃ。

また、夕食も最高で、でこまわし、鮎の塩焼き、アマゴの刺身に、そば米雑炊、祖谷そば、かた豆腐、春の山菜の天ぷらと祖谷づくしで・・またまた、余は満足である。

帰る時も、気持ですと飴玉を手渡され、車が見えなくなるまで、両手で大きく手を振ってくれました。これこそ四国の鏡、お遍路さんを温かい気持ちで迎え入れるお接待の心でこのホテルが運営されているという事で、「達人リコメンドの宿」と勝手に認定いたします。

「新祖谷温泉ホテルかずら橋」一度お試しあれ。

平成21年4月12日記(旅は4月4日～5日)

出羽島(徳島県牟岐町)

徳島県南部の観光の中心は、ウミガメの産卵場所としておなじみの大浜海岸のある日和佐ですが、薬王寺の正門の横で100円玉を1円玉に交換して階段に1枚ずつ置いて厄落とし、すべての厄坂を登って瑜祇塔(ゆぎとう)から日和佐を一望し、お遍路気分を満喫。

うみがめ博物館「カレッタ」で大浜海岸に上陸するアカウミガメの生態を研究し、パソコン画面からクイズ形式で出題される問題に答えてうみがめ博士に認定してもらいましょう。但しこれは情報が古いので、現在も行われているか知りませんが、達人はかつて、うみがめ博士に認定してもらい缶バッジを手に入れました。

続いて、道の駅日和佐の足湯に浸かって旅の疲れを癒して、国道55号を南に進んで牟岐港を目指しましょう。



牟岐港からは、定期船の大生丸で15分、達人リコメンドの島、出羽島(てばじま)があります。

旅の目的は様々で、沈下橋から清流に飛び込みたいとか、瀬戸内の春の味覚・サワラの刺身を味わいたいとか、青春18切符を買って海の見えるあの駅に佇みたいとか価値観それぞれですが、

自然の中で何もしないという手段も一つの贅沢ではないでしょうか？



黒潮の影響で、ハイビスカスが咲く温暖な気候。周囲4kmで一時間もあればひとまわり。

観光スポットは、大池のシラタマモと民家の縁台の蔀帳(みせ)造りに石積の堤防。

シラタマモは、海水から淡水に移行する進化の過程をそのまま残す小草木で、生きた化石とも呼ばれて、日本中探してもここでしか発見できない自然界では価値の高い植物ですが、実際に見える姿は大池の緑の部分としか表現できません。



太平洋上に見える大島には、カンムリウミスズメの巣があってヒナ鳥は親鳥を追い掛けて絶壁を転がり落ちて海から旅立ちます。

スキューバダイビングに興味があれば、海に眠る10メートルの高さを誇るハマサンゴの「千年サンゴ」を捜すもよし。



特産品は「テングサ」で寒天の材料となりますが、コンビニで買う人工甘味料たっぷりのゼリーを食べ慣れた現代っ子の口に合うか疑問です。

ここには、白砂の海岸もコンビニも民宿もありませんが、手付かずの自然とセピアカラーの写真と同じ風景が残されています。静かに海を眺めてゆっくりと島を散策、あとは自然に抱かれて、何もしない・・・なんて最高の贅沢を味わう秘密の空間です。

そんな理由で「達人リコメンドの場所」と勝手に認定いたします。

秘密の空間「出羽島」一度お試しあれ。

平成21年4月13日記(旅は3月15日)

渦の道(徳島県鳴門市)

何を今更、鳴門？なんて突っ込まれそうですが、列車で四国に行くなら坂出・高松が四国の玄関口ですが、車で行くならやっぱり鳴門からですね・・・

「オレンジフェリーで東予上陸？」そんな少数派の意見は無視しまして、四国観光デビューは本四高速で明石海峡を渡って、淡路島を越えて大鳴門橋からですよ！



鳴門北インターで降りて大塚美術館に入って、渦の道歩いて日帰り・・・なんて慌ただしい観光を好む人もいらっしゃいますが、それじゃ四国本土に上陸しておりませんぞ。それはそれで充実していますが、そこで帰ったら、大毛島観光と陰口叩かれますよ。



できるなら、鳴門スカイラインを走って島田島の四方見展望台で内外の島々を眺望し、四国本土に上陸しませんか。

続いて、スカイラインから国道11号線に出て高松方面に駒を進め、ハマチの刺身が世界で一番おいしい「びんび家」でランチタイム。「びんび」とは魚を意味し、文字通り新鮮な魚を食べさせてくれる昭和の時代から人気の老舗食堂です。もし、この店に行った経験がなければ達人に騙されたと思って「おまかせ定食！」と叫んでみて下さい。あなたの価値観の全てが変わるかも知れませんぞ。参考まで、ハマチ刺と天盛りに季節の逸品、シャキシャキの鳴門ワカメたっぷりの味噌汁、漬物つきで2000円というのが21年4月現在のお値段です。

食べ物だけで考えると、鳴門鯛に養殖の牡蠣。鳴門金時(さつまいも)にレンコンなんて根菜も外せません。

大麻比古神社の大鳥居をくぐり、映画「バルトの楽園」の舞台・ドイツ館を訪問してベートーベンの第九を口ずさみ、四国第一の霊山寺で手を合わせましょう。本堂にお参りして、大師堂で道中の

安全を祈願して「南無大師遍照金剛」と唱えれば、あなたも立派なお遍路さんです。



形から入るのが好きな人は、ここで白装束と金剛杖を購入、納経帳を買えばスタンプラリーへの準備完了です。あと、掛け軸を仕上げたいと思うかも知れませんが、各寺院での納経単価が帳面より少し高く、結願後に仕上細工の表装費用も掛かりますので、まずは財布の中身と要相談。

また、お遍路さんの持ち物には「同行二人」なんて言葉が記されていますが、二人じゃなきゃ参加できないとか、カーナビと二人旅とかじゃありませんよ、いつも弘法大師様が修行を続けるあなたを守って付いててくれると言う意味で、88ヶ所全て回れば

「あなうれし、行くも帰るもとどまるも、我は大師と二人連れ」

なんて気分になれるからですぞ。遍路旅はタクシーをチャーターすれば7日程度、自家用車では10日、歩いて巡るなら、健康状態にもよりますが、年齢プラス10日と言うのが相場だそうです。

また、鳴門でのお泊りは、海鮮料理自慢の民宿から世界に誇れるリゾートホテルまで、目的に合わせて情報サイトで検索してみましょう。

これだけ見どころテンコ盛りの鳴門ですが、達人からのオススメは45メートルの高さから渦潮を眺望する「渦の道」



これは、当初道路鉄道併用橋として計画された大鳴門橋の軌道建設予定部分に観光用の通路を配置した渦潮見学施設で、誰もが訪問する場所です。けれども、春と秋の大潮の時期の干潮の前後一時間程度は、潮の干満で海峡が巨大な滝に見え、あちらこちらで荒々しく渦を巻く壮大な自然のパノラマに変貌します。

今回は、春の大潮3月14日・干潮の14時に合わせて訪問し、想像以上に壮大な姿を目にすることができて、得した気分でした。

ということで、春の大潮の時期、干潮の時間に行く「渦の道」を達人リコメンドの空間と勝手に認定いたします。

大自然のパノラマ「渦の道」一度お試しあれ。

平成21年4月17日記(旅は3月14日)

内子(愛媛県内子町)

愛媛と言えば、坊ちゃんですか？四国最大の温泉街の道後温泉は、坊ちゃん風呂で市内からそこに向かう列車は坊ちゃん列車。土産は坊ちゃん団子で地ビールがマドンナ？

間違っていないか愛媛県！確かに日本大衆文学の創始者ともいべき夏目漱石が松山を舞台にこの小説を書いてくれたのは名誉な事ですが、じっくり小説を読むと、江戸っ子で無鉄砲をウリにするワガママ先生が、田舎に愛想をつかせて逃げ出しただけの話じゃないですか？先生は、愛媛に対して愛情がありましたか？「菜めし」と「ナモシ」の違いを議論する暇があって、正式な鯛めしが「宇和島風」か「北条風」か考えなかったのでしょうか？イライラするならカルシウムの宝庫、じゃこ天を頬張って落ち着いたらいかがでしょうか？赤シャツ先生もその程度の接待をしてあげたらいかがですかね？

失礼ながら夏目漱石は、江戸っ子の主張ばかり重んじて、四国のお接待の気持ちを語ってくれましたか？愛媛の魅力はそんなものじゃないと思いませんか？



(うっすらと見えるのが大分県)

西日本最高峰の石鎚山があって、そこから湧くのは「うちぬき」という日本一美味しい水。宇和島の牛鬼祭は迫力が違いますよ。岬サバ、岬アジに来島の鯛と海の幸に舌鼓。母恵夢にタルト、別子飴。絶対に忘れちゃならないのは、愛媛の真面目なジュース・ポンジュース。

噂では愛媛は水道の蛇口が二つあって一つから水が出てもう一つからポンジュースが出るという話ですが、事実かどうかは各自でお確かめ下さい。

そんな魅力満載の愛媛県からのオススメは、内子。ゴールデンウィークの旅は、定額給付金とETC割引を利用して石鎚、松山、佐田岬、内子と愛媛を横断。山あり海あり温泉・文化ありと盛り沢山ですが、愛媛だけに愛ある町として内子を紹介します。

八日市護国の町並はレトロ気分。江戸時代後期から昭和初期の建物が並びます。木蠟の輸出で潤った時代の商家に、それを支える人達の生活基盤となるものを売るお店、その儲けで建設した歌舞伎座。また、石畳の路地にうだつ造りの屋根や鬼瓦などなど。歩けば歩く程新しい(?)発見があります。



木蠟とは、漆系の櫨の木から作る油脂で、蠟燭・お相撲さんのびんつけ油やポマードに薬品・石鹼の原料となります。

歌舞伎座は木造建築の内子座、キャパは650名としていますが、それじゃ詰め込み過ぎじゃないですか？ 桝席や棧敷席があって、舞台は回転装置付きで、興行が行われてなければ入場料さえ払えば舞台袖だけでなく舞台下の奈落から、役者が下から出て来る「せり上がり」や「すっぽん」まで見学できて得した気分になれますよ。



今回の宿泊先は、この内子座への曲がり角付近にある松乃屋。温泉じゃないけど、食事は最高、エクセレント！ 食いしん坊のハートを驚掴みなんて言葉が似合うお宿です。

岬アジ・さざえ・鯛・わらじえびの刺身。キジの柳川風鍋、レンコンしんじょ、おからをママカリで巻くまる寿司（東予地区では、いずみやと言うそうです）鮪のカルパッチョに鱈の切り身を焼いてカボチャと季節の野菜のソースを添えた逸品（これが美味しくて、こっそりお皿舐めたらか〜なんて気分になりました）あとは、ジャコ飯にマイタケの土瓶蒸し・デザートはテングサを使った柚子味のゼリーと、心を込めて作ってくれた料理のラインアップに・・・「何食うてもうまい！」なんて言葉しか思い浮かびせん。



朝も一夜干しのメザシと南予の味さつま汁に固豆腐、イタリアンテーストのサラダでまたまた「うまい！」と和洋折衷の料理に感動です。

また、昼は(夜も)お宿の一階で『Poco a Poco』なるイタリアンレストランを開店しているので、周辺観光の後ここに戻って食べた、鯖と春野菜のペペロンチーノのランチセットも素敵で、お宿全体として「地元食材に対する愛情でお客さんを幸福にする！」なんて表現が似合う至福の空間です。

内子の人は温かく、土地の事を雄弁に語ってくれます。観光するなら、町並みは当然、地元の野菜が並ぶ道の駅「からり」、河辺地区の坂本龍馬脱藩の道と屋根付きの橋、斜面の棚田に夕日の似合う双海の海岸沿い、青春18切符のコマーシャルでお馴染み下灘駅。



お宿で働く皆さんは当然の事、お店、観光施設と行く先々で内子の良さを教えてくれました。現実に最終日の観光ルートもそんなアドバイスから組み立ててみました。

そして、「ゆっくりして行って下さい！」……ってのが口癖みたいで、愛ある愛媛で自分の生まれ育った街を愛する人と、そんな人が作り出す土地として、内子を勝手に達人リコメンドの町と認定いたします。

派手さはないですが、心温まる空間「内子」一度お試しあれ。



平成21年5月8日記(旅は5月3日～6日)

石鎚山(愛媛県西条市)

愛媛の魅力は海と山。歩いて渡れるしまなみ街道、豊予海峡、四国カルスト、小田深山、久万高原。そして今回のオススメ西日本最高峰の石鎚山がそびえ立ちます。

瀬戸内が温暖な気候なのは、太平洋から来る湿った雲が石鎚山系に当たって雨となって流れ落ちるからで、水は四国三郎と呼ばれる吉野川に注ぎ、また地下水となって瀬戸内側に流れミネラルたっぷりの「うちぬき」という銘水となって湧き出します。

うちぬきとは豊富な地下水量を誇る西条(加茂川の扇状地)で地面に鉄パイプを打てばこの水が出てくる事から命名されたそうです。健康に気遣う現代人、水をテーマに語る事も多いと思いますが、六甲、南アルプス、大阪の水道など話題となりますが、私の知る限り「うちぬき」が日本一のおいしい水だと勝手に主張します。

今回の旅の最初の目的地は石鎚山。ゴールデンウィークの大渋滞で明石海峡を渡るつもりが、阪神高速・若宮で諦めて、山陽自動車道・三木小野経由で瀬戸大橋から四国入り。通常の二倍の時間を費やしヘトヘトになった身体を癒してくれたのは、小松の湯之谷温泉。単なる銭湯ですが、「漂う硫黄の香が効くう〜！」



しっかり温まって西条(但し壬生川)泊、鉄板で焼とり皮とざんき(鶏の唐揚げ)をつまみにビールで乾杯して翌日に備えました。

早起きして西条からロープウェイ登山口(下谷駅)へ移動し、チケットを買って乗車したら周りの皆さんの重装備にビックリ！ガイドブックで見る限りロープウェイ山上(山頂成就駅)から3時間。

とりあえず達人として四国最高峰に登った経験がないのは恥ずかしいから、なんて動機で計画しましたが、山を舐めたらあきません。こいつはハイキングじゃなく登山ですぞ。



朝から雨がぱらつき足元が悪い中、高度1300mの成就駅から中宮成就社1450mまで歩き、ここで道中の安全を祈願して神門からいざ聖域へ。参考まで、ここは大峰山などと共に日本七霊山の一つ石鎚山を御神体とする石鎚神社で、「法螺貝を持って白装束の山伏が山籠りする」イメージの修験道の霊場で、事実白装束の修験者が行き交います。

まずは、普通のハイキングコースみたいな道で頂上遥拝の鳥居までひと汗かいて、いざ登らん。
ヤマザクラにアケボノツツジなどの花が咲き、鳥のさえずりが聞こえる・・・なんて気楽な事言うてる場合じゃなく、原生林の続く急なジグザグ道に、石の階段、丸太の階段、鉄の階段。登って上って昇って登る。汗だくになって到達した先は「試しの鎖」



岩場に鎖が配置されていて、上り48m下り19m。横には「自信のない人は迂回路をご利用下さい。」なんて看板が目に入ります。

舐めた格好でここまで登ってきましたが、これでも関西では、生駒山・比叡山・茶臼山・天保山などの山々を征服してきた経験を重ねていますので、おもむろに軍手を取り出して、心を引き締め迂回路へ。

後で、これを登った人に感想を聞いたら「上りは何とか上がったが、下りが怖くてたまらなかった。」そう・・・「急がばまわれ」なんてことわざを知っていますし、昔の話、高校野球で当時の星稜高校のスラッガー・ゴジラ松井の打席をすべて敬遠した作戦も賢明な選択と評価しますし、土木業界の基本は安全第一ですし、ともかく登山を続けます。

熊笹の茂る険しい道を進み後方を振り返ると遥か下方に試しの鎖が見える。尖がった岩に重装備の人が群がる姿を見て脱帽。やっぱ心構えが違いますね。

山では人とすれ違うと「こんちわ！」なんて挨拶を交わしますが、上から白装束のいかにもって感じの軍団が下りてきて

「おのぼりさん！」などと声かけられて、確かに「登山する心構えができていない都会育ちの田舎もんです・・・」なんて落ち込みましたが、実はこれが、石鎚登山での正式な挨拶方法で、上る人には「おのぼりさん！」下る人には「おくだりさん！」と声掛けするのが決まり事だそうですが、恥ずかしながら今回は「こんちわ！」とか「あと一息ですよ！頑張ってください！」なんて言葉は出てきましたが、一度も正式作法を守れませんでした。



夜明かし峠を登る、上る、昇る。到達した場所は1の鎖小屋。
これから先、1の鎖33m・2の鎖65m・3の鎖68mと続きますが、誇りを持ってすべて迂回路を使用して上り続けました。途中雪が残り、足場が流された場所があり、山頂に近付けば吐く息も白くな

り、おまけに周りは霧で真っ白、頂上山荘が見えれば大願成就・石鎚山頂に到達です。

石鎚神社・奥宮頂上社で無事ここまで来れたお礼をして、霧の中、山頂の看板の前で記念撮影。けれども、ここは正確には高度1974mの「弥山」で、高度1982mの「天狗岳」ははずこ？

霧で見えない、寒い、疲れた、腹減った。無料休憩所の頂上山荘で一息、下界で買ったオムスビを食べて、あめ湯を買って、着替えて身体を温めます。

外に出れば、少しの時間ですが霧がはれ・・・というより雲が風に飛ばされたと表現すべきかも知れませんが、周りの風景が見えて、前方に天を指さす尖塔・天狗岳が見えます。そこに辿り着くには、鎖を降りて合掌造りの岩場の尾根を進まなければなりません。迂回路は、ありませんので本当の西日本最高峰を眺めて一礼。

「今日は、これくらいにしといたろ。」

と大阪流の敬意の台詞を残して下山しました。



時間的には、8時20分発のロープウェイに乗って、山頂成就駅から歩いて石鎚山頂に到達したのが11時前。鎖場を避けた分、標準よりも時間が短かったと思います。

おくだりさんは、自然を楽しむように、山の風景をカメラに治めながら、ゆっくりと進みました。まあ、「足が棒になって」と表現するのが適当かもしれませんが、無事頂上遥拝の鳥居に到達。山に一礼して、成就社を目指しますが、これが上り坂で大変。またまた汗だくになって神門をくぐり成就社に到達。本殿に拍手を打って無事を報告して、この地を後にしました。

参考まで、山頂成就駅15時発のロープウェイで降りて、17時には松山のお宿に到着しました。



教訓「山を舐めちゃいけません。」

霊峰・石鎚山に登拝するなら、しっかりとしたリュックに軍手・少し多めの着替えとタオル・長袖のシャツ・雨具・飲み物などを詰め込んで、ギザギザ靴底の登山靴を履いて、覚悟を決めて上りましょう。次回は心を引き締めて、天狗岳まで辿り着きたいと思っています。

そんな場所として、リスペクトの気持を込めて、石鎚山を達人リコメンドの山として勝手に認定させていただきます。

霊峰・石鎚山、もう一度頂上を目指します。また、興味を持たれた方も一度お試しあれ。

平成21年5月10日記(旅は5月3日～6日)



[達人リコメンドの四国\(香川編\)](#)

[達人リコメンドの四国～番外編\(徳島・大人の遠足\)](#)